

1 鎌倉東地域 地域別方針



まちづくりの基本的考え方

- 豊かな自然や歴史的環境を保全し、生活者が親しみ活用できるまち、いつまでも住みつづけたいまちにしていく。
- 交通渋滞の解消や歩行者環境を整備し、高齢者など誰もが安全・快適に移動できるまちにしていく。
- 風水害や地震に対する防災・減災対策を進め、市民が安心して暮らせるまちにしていく。

目標

目標①
自然環境・歴史的資源の保全・活用と、住みやすい住宅地の環境づくり

方針

- ①山林の緑や農地などの自然環境を保全・活用する
- ②子どもや市民が遊び、親しむ場をつくる
- ③河川をいかし水辺に親しむ場をつくる
- ④地域の歴史・文化を知り、親しむ場や機会をつくる
- ⑤周囲の自然と調和した住宅地環境及び景観を維持・改善していく

取り組み

- 県と連携した古都保存法による緑の保全
- 市民も観光客も楽しめるハイキングコースの充実
- 山林・農地の保全活用（市民農園化等）
- 山林・果樹園等の活用等（自然学習の場）
- 遊び場、公園広場等の確保（既存緑地、空地の活用）
- 河川の自然回復と環境保全・親水化（河川の水質維持、自然護岸、親水化、緑道の整備等）
- 歴史的・文化的遺産の保全と有効活用
- 永福寺跡の公園的整備
- 旧華頂宮邸の保全・活用（住民が中心となった管理体制の検討等）
- 住宅地環境の保全・形成（まちづくりルールの策定等）<丘陵、市街地、谷戸、主要道路沿道の住宅地>
- 良好な住宅地景観の保全・形成（既存樹の保存と駐車場周辺の緑化推進等）
- 良好な住環境の形成による空き家の解消

目標②
自動車利用の抑制と、誰もが移動しやすい交通システム、歩行者を中心とした環境づくり

- ①古都の環境と生活を守るため自動車利用を抑制し、歩道を確保する
- ②住宅地の道路は生活道路として、安全に歩ける道づくりを進める
- ③バスサービスを充実するなど、誰もが移動しやすい公共交通システムを整える
- ④歩行者、自転車利用のための緑道としての整備を推進する

- 交通需要マネジメント施策*の推進
- 金沢鎌倉線（地域間を結ぶ主要道路）の整備・改善（歩道確保等）
- 浄明寺大町線の廃止
- 生活道路の環境改善（大塔宮～瑞泉寺の歩行者優先道路化等）
- 地域の高齢化に対応した道路環境のバリアフリー化
- ミニバスでも運行が難しい交通不便地域への小型車両（乗合タクシー）等を活用した公共交通機関の検討やバスサービスの充実（デマンドバス*等）
- 滑川南側の道の快適な生活道路化

目標③
地域の環境に配慮した防災・減災対策の推進、公共施設の充実

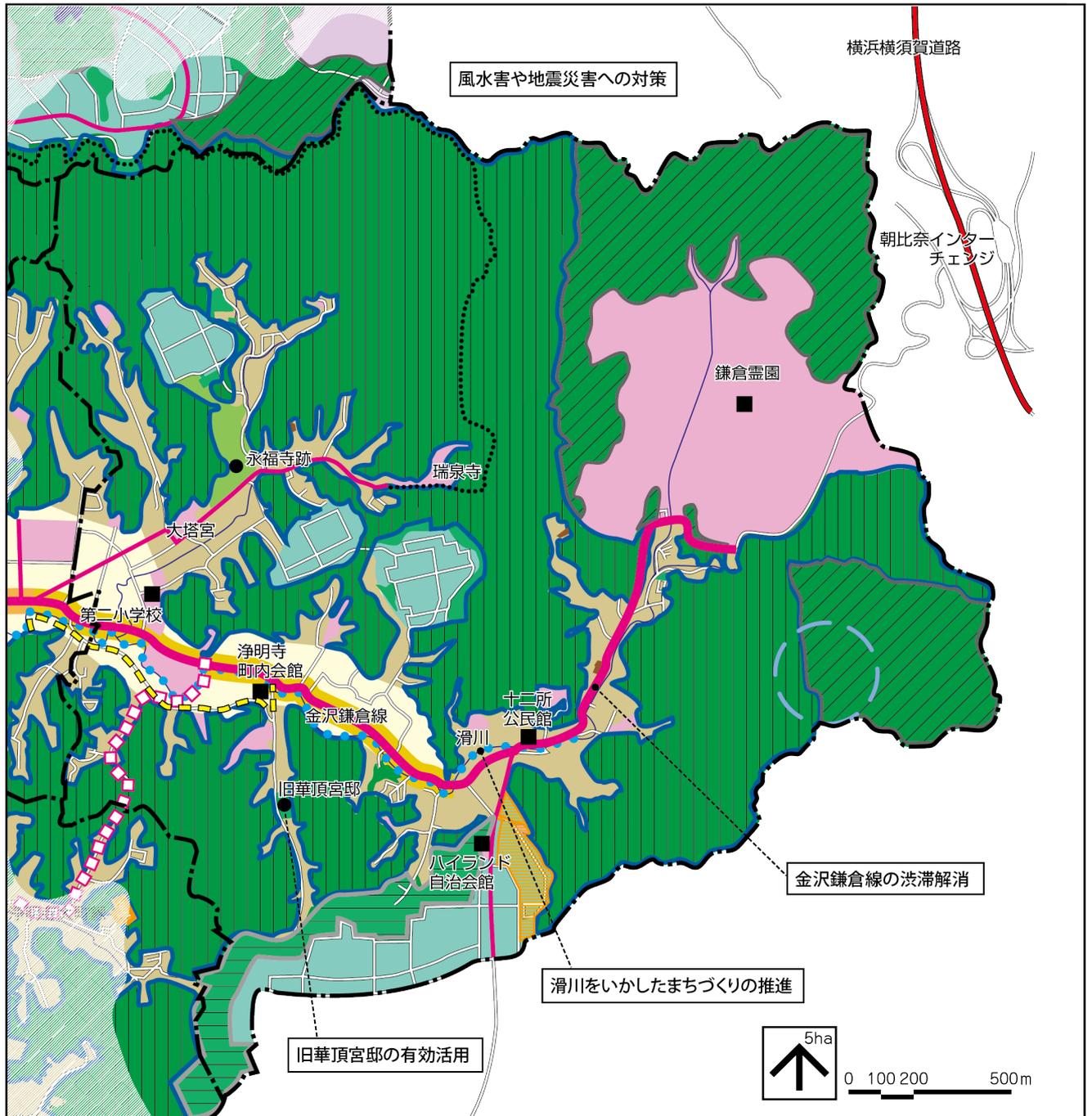
- ①地域の環境に配慮した防災・減災対策を進める
- ②公共施設やシステムの充実した、住みやすいまちづくりを進める

- 地域の防災拠点の整備（ミニ防災拠点*、広域避難場所、既存空地の活用等）
- 避難路の確保
- 土砂崩落の危険性がある斜面地の防災対策の実施
- 自治・町内会館の充実（防災やコミュニティ拠点の機能強化）
- 公共施設・広場等の整備（地域住民サービスへの工夫）
- 公共トイレの充実

ソフト面の取り組み

- ・災害時の避難・救援システム、コミュニティ（自主防災組織）づくり
- ・かけ崩れの実態の把握、情報提供
- ・案内システムの整備（平常時には観光案内、災害時には避難情報を提供等）

図 地域別方針……鎌倉東地域



- | | | |
|------------------------------------|----------------|----------------|
| 古都保存法の緑（歴史的風土保存区域及び特別保存地区の指定地内の緑地） | 旧鎌倉低・中層住宅地 | 浄明寺大町線の廃止 |
| 古都保存法以外の法の緑 | 谷戸の住宅地 | 金沢鎌倉線 |
| 身近な緑 | 沿道住宅地 | 生活道路 |
| 自然的公園としての緑 | 計画開発住宅地（丘陵住宅地） | 滑川南側の生活道路 |
| 都市公園等の緑 | 公共公益施設等 | ハイキングコース |
| 歴史公園としての整備 | 地区計画 | 地域別の概ねの区域を示す字界 |
| 生産緑地地区 | 歴史的・文化的資源 | |
| 山林・果樹園等 | 地域の防災やコミュニティ拠点 | |
| 河川（滑川） | | |